

1 調査名称：富谷市都市・地域総合交通戦略策定調査

2 調査主体：富谷市

3 調査圏域：富谷市市街地

4 調査期間：平成30年度～令和元年度

5 調査概要：

本市は、東北地方の中核都市である仙台市に隣接する位置的優位性や良好な自然環境から、昭和40年代後半頃より大規模住宅開発の進展に伴い、著しい人口増加が続き、平成28年10月には「単独市制施行」となった。今後も、住宅地開発が見込まれるとともに、大規模な工業系の開発も予定しており、2035年頃まで人口は増加し続けることが見込まれている。

しかしながら、市内唯一の公共交通機関が路線バスのみであり、将来の都市構造と交通需要に対応するためにも、南北方向の都市間連絡を担う公共交通網の連携強化が必要となっている。さらに、少子高齢化社会の進展や環境問題の深刻化など社会情勢は急激に変化しており、公共交通に関する現況の課題改善を望む声も多く挙がっている。

これらのことから、自家用車に依存することなく各関係機関が連携し、適切な役割分担のもと望ましい都市像の実現を図るため、交通関連事業とまちづくりが連携し、総合的かつ戦略的な交通施策の推進にむけた、富谷市公共交通グランドデザイン「富谷市都市・地域総合交通戦略（基本構想）」を策定することとした。

なお、平成30年度分の調査としては、基本構想の作成までをもって完了し、令和元年度は、引き続き、都市・地域総合交通戦略（基本計画）の策定を行う予定である。

6 その他（ビックデータの導入）：

モバイル空間統計（人口分布統計）の携帯基地局運用データを用いて、富谷市内の滞留人口の分析調査を実施した。

## I 調査概要

### 1 調査名称

富谷市公共交通グランドデザイン（都市・地域総合交通戦略（基本構想））  
策定業務

### 2 報告書目次

#### 1.業務概要

- 1.1 業務目的
- 1.2 業務項目
- 1.3 業務内容
- 1.4 業務フロー

#### 2.富谷市の都市交通の現状及び課題の整理

- 2.1 富谷市の交通をとりまく社会経済情勢
- 2.2 富谷市の交通の現状
- 2.3 富谷市の交通の課題

#### 3.富谷市の都市づくりが目指す将来像の整理

- 3.1 基本目標
- 3.2 交通の将来像
- 3.3 将来の都市構造

#### 4.新たな交通体系の目標の検討

- 4.1 目標指標の設定事例
- 4.2 目標指標の設定

#### 5.目標達成に必要な施策・事業の検討

- 5.1 施策・事業メニューの抽出
- 5.2 施策・事業内容の整理

#### 6.残る課題の整理と今後の展開に向けた方策

#### 7.公共交通指向型都市構造への発展を目指した公共交通グランドデザインの作成

別冊 1 富谷市公共交通グランドデザイン 都市・地域総合交通戦略（基本構想）

別冊 2 富谷市公共交通グランドデザイン策定業務 報告書概要版

別冊 3 富谷市公共交通グランドデザイン ダイジェスト版

## 3 調査体制

富谷市総合交通検討委員会 (委員長：宮城大学教授 徳永 幸之)
富谷市総合交通検討委員会 事務局 (富谷市企画部企画政策課交通政策推進室)

## 4 委員会名簿等：

No.	区分	機関等	職名	氏名	備考
1	学識経験者	公立大学法人宮城大学	教授	徳永 幸之	委員長
2	交通事業者	宮城交通株式会社	第一担当課長	鈴木 俊介	
3	交通事業者	一般社団法人 宮城県タクシー協会	大崎支部理事	中村 信男	
4	交通事業者	仙台富士交通株式会社	取締役	多田 康則	
5	住民代表者	明石台第二町内会	町内会長	平岡 政子	
6	東北運輸局	東北運輸局宮城運輸支局	首席運輸企画専門官	田口 幸治	
7	宮城県	宮城県大和警察署	交通課長	菊地 忠之	
8	宮城県	宮城県震災復興・企画部 総合交通対策課	課長	田村 賢治	
9	宮城県	宮城県土木部都市計画課	課長	藤田 仁	
10	市町村	大和町まちづくり政策課	課長	千葉 正義	
11	福祉関係団体	社会福祉法人 富谷市社会福祉協議会	会長	草野 昭徳	
12	富谷市	富谷市	副市長	高橋 義広	副委員長
13	富谷市	富谷市建設部	建設部長	伊藤 正	
14	富谷市	富谷市保健福祉部	保健福祉部長	奥山 育男	
15	市町村	仙台市都市整備局 総合交通政策部	部長	石川 健	オブザーバー

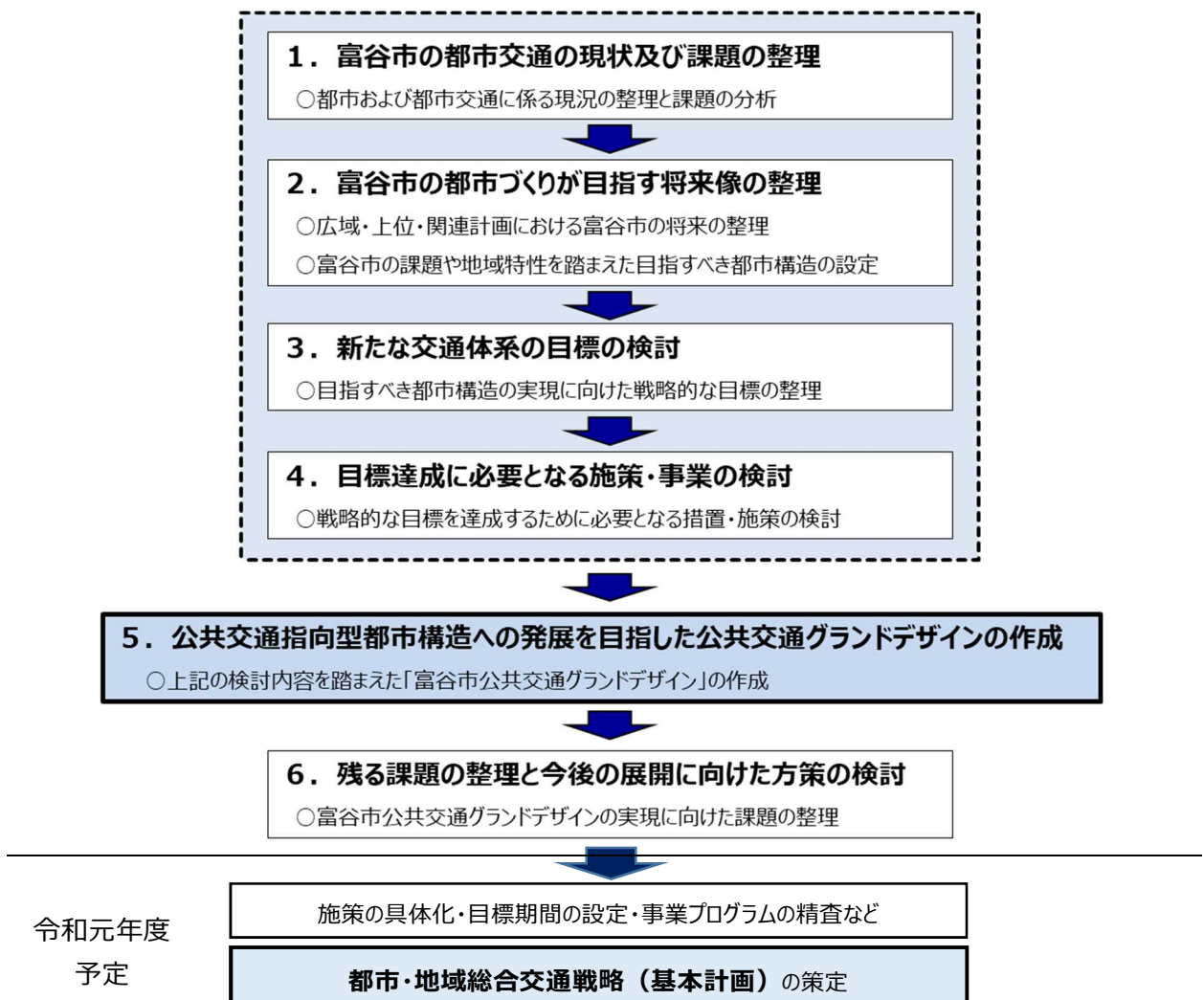
## II 調査成果

### 1 調査目的

富谷市は、平成28年10月の単独市制移行に伴い、今後のまちづくりの基礎固めを行う新たな局面に立っており、来るべき少子・超高齢社会の到来、道路交通渋滞、交通に起因する環境負荷の低減、都市としての魅力の発揮等の課題に対応することが求められている。

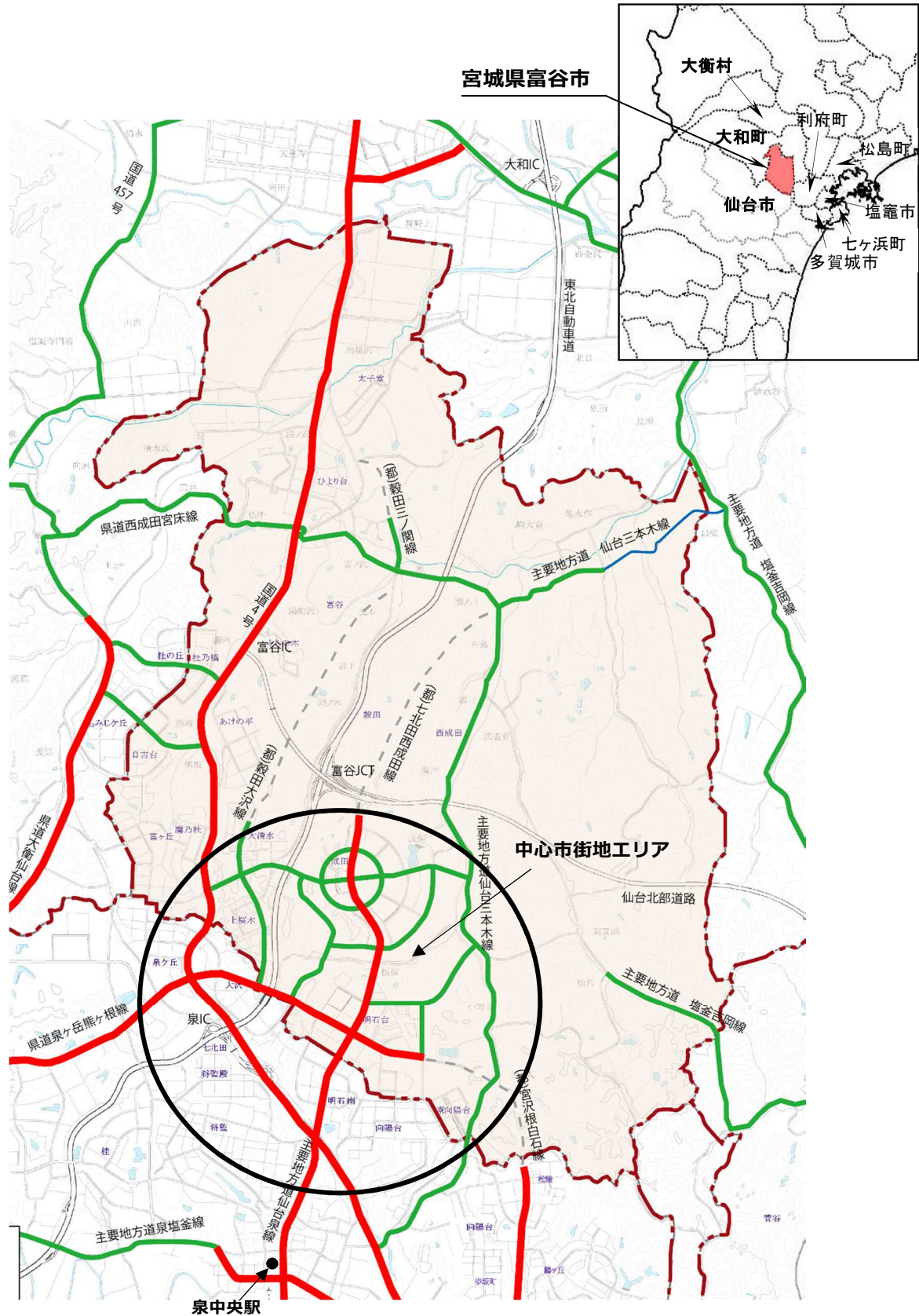
本調査は、富谷市の将来の魅力ある都市像や交通体系の姿を明らかにし、その実現に必要な施策等を整理し、市単独の過年度調査における調査内容を踏まえた、富谷市公共交通ランドデザイン（都市・地域総合交通戦略（基本構想））を策定するにあたり、都市交通及びまちづくりに連携した総合的かつ戦略的な交通施策の推進に関し、必要な検討を行うことを目的とする。

### 2 調査フロー



### 3 調査圏域図

調査区域は富谷市市街地とし、市街地を含む市内全域や仙塩都市圏の北部地域など市域外に及ぶ広域交通も視野に入れて計画策定を行った。



#### 4 調査成果

平成30年度調査の成果概要は以下のとおり

(基本目標)

### 「住みたくなるまち日本一」にふさわしい 交通環境の実現

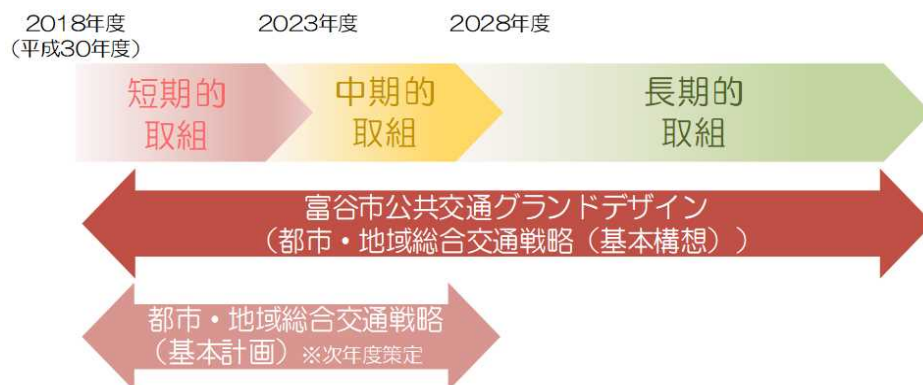
「富谷市公共交通ランドデザイン（都市・地域総合交通戦略（基本構想）」は、本市が目指す将来の姿を示した「富谷市総合計画」及びこのうち重点的な施策を位置付けた「富谷市地方創生総合戦略」の実現に向けて、各種交通施策の方向性について具体化するものである。

過度の自動車依存からの脱却、高齢化社会への対応、地域間交流・連携の強化といった富谷市の交通をとりまく課題に対応しつつ、富谷で暮らす人・働く人・訪れる人の誰もが、利便性・快適性・安全性を感じることでできるまちをつくるため、今後の公共交通施策の基本目標を『「住みたくなるまち日本一」にふさわしい交通環境の実現』と設定し、関連施策に取り組む。

(目標年次)

「富谷市公共交通ランドデザイン（都市・地域総合交通戦略（基本構想）」の策定は、長期的な取組みを含む今後の交通施策の方向について取りまとめを行った。

次年度に策定を予定する「都市・地域総合交通戦略（基本計画）」では、富谷市公共交通ランドデザイン（基本構想）の実現に向けて、短期的な取組は5年後の2023年度を、中期的な取組は都市の発展・成熟を想定し10年後の2028年度を目標年次と設定した計画を取りまとめる予定とする。



## (交通の現状及び課題)

本市における主な公共交通機関は、路線バスが主に市内各地と仙台市方面とを結ぶ路線を、市民バスが市内各地と市役所を結ぶ路線や、隣接する大和町バスターミナルまで運行しており、市街地部はバス路線網が密に形成されている。

また、市街地と仙台市方面を結ぶ主な幹線道路は国道4号と七北田西成田線の2路線に限定されている。

市外への通勤・通学の移動についてはマイカー利用が約67%と多くを占め、マイカーへの依存が強い状況にあることから、通勤時間帯には上記の路線に交通が集中し慢性的な混雑が発生しており、以下の3点を交通の課題として整理をした。

### 集約型市街地形成に向けた自動車依存型の交通体系からの脱却

- 過度にマイカーに依存する必要のない、利便性が高く環境負荷の小さい地域を形成することのできる交通体系整備が望まれる。
- そのためには、公共交通を地域で支えることが重要。

### 高齢化社会を支える選択性の高い交通体系の実現

- ドライバーの高齢化・運動能力の低下による移動手段を失う人々の増加にそなえ、高齢化社会に対応可能な交通体系の整備に早期に着手することにより、高齢者にとっても魅力のあるまちへと成長することが望まれる。

### 多核連携型の都市圏構想実現を支援する都市間交通軸の強化

- 多核連携型の都市圏構造の実現に向け、仙台都市圏北部地域の拠点間連携の強化および泉中央地区の拠点性の向上を支えるため、都市圏北部の拠点間を連結する交通基盤の強化が不可欠。

## (交通の将来像)

### 交通の将来像

#### 将来像1：さまざまな選択肢のある環境負荷の少ない交通環境の実現

(マイカー依存からの脱却)

さまざまな移動の場面で、公共交通・自転車・徒歩などマイカー以外の多様な交通手段が選択できる交通環境を実現し、渋滞・事故・環境悪化などのマイカー交通に起因する問題が少ない「安全で環境への負荷の小さいまち」を目指す。

#### 将来像2：あらゆる世代の人がいきいきと活動できる交通環境の実現

(高齢化社会への対応)

高齢者を含め、富谷で暮らす人・働く人・訪れる人の誰もが、不便・不快と感ずることなく移動ができる交通環境を整えることにより、「あらゆる世代の人がいきいきと活動できるまち」を目指す。

#### 将来像3：都市部、郊外部にすばやくアクセスできる交通環境の実現

(地域間交流・連携の強化)

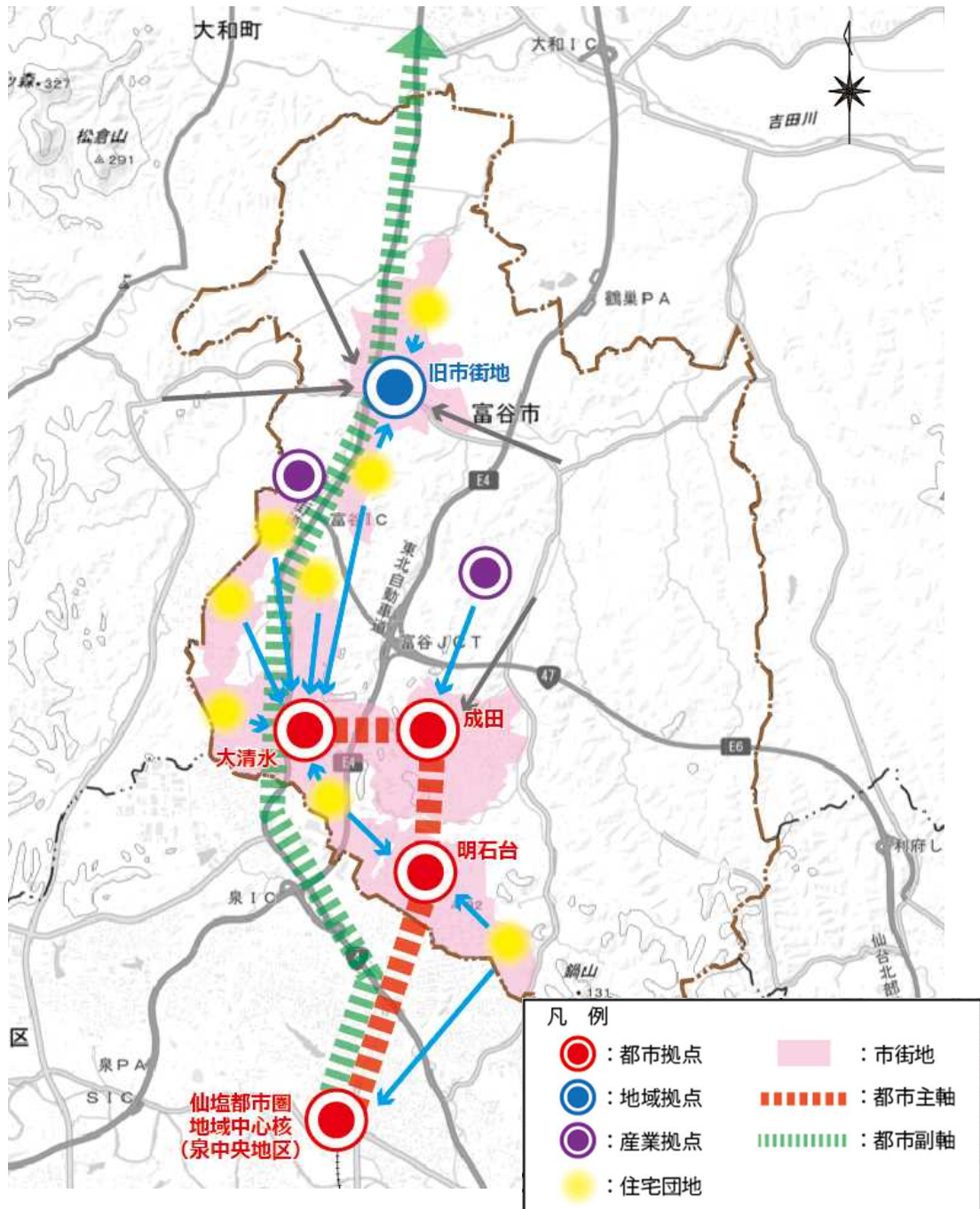
経済・教育・文化・娯楽等、高度で多様な都市機能が集積する仙台市や、豊かな自然に恵まれるとともに大規模な従業地という一面もあわせもつ大和町、大衡村など、多様な魅力を持つ周辺都市へのアクセスの利便性を高めることにより、様々なライフスタイルの人が生活の拠点とすることができる「魅力のあるまち」を目指す。

### (将来の都市構造)

交通の将来像の実現に向けて、望まれる都市の姿を明らかにするため、将来の都市構造を設定した。

具体的には、市域における人々の活動の中心となる拠点として「都市拠点」、「地域拠点」、「産業拠点」を位置づけ、これらの拠点を結ぶことにより、市の骨格を形成する軸として「都市主軸」、「都市副軸」を設定し、これらの拠点や軸の機能を高めるための施策を展開する。

【将来都市構造図】





(関連施策・事業メニュー)

基本目標や交通の将来像の実現に向け、将来の都市構造の形成を誘導するため、以下の5本柱で12施策を基本として取り組む。

なお、目標期間(短・中期)の設定や各施策の実施主体・関係主体については、次年度策定を予定している「基本計画」において整理を行い決定する。

【将来像実現に向けて取り組む施策】

目指す将来像 施策メニュー		【将来像1】 さまざまな 選択肢のある 交通環境	【将来像2】 あらゆる世代 の人がいきい きと活動でき る交通環境	【将来像3】 都市部、郊外 部に素早くア クセスできる 交通環境
1. 幹線交通 の強化	①新たな軸となる基幹公共交通の整備	○	○	○
	②基幹交通の拠点となる交通結節施設の整備	○	○	—
	③バス路線網の再編	○	○	○
	④公共交通の速達性・定時性向上に資する都市計画道路の整備	○	—	○
2. フィーダー交通の充実	⑤市民バスの再編	○	○	—
	⑥パーク・アンド・ライド用駐車場の整備	○	—	○
	⑦短距離移動を支援する新たな交通の導入	○	○	—
	⑧自転車利用環境の整備	○	○	—
3. 公共交通利用のしやすさの向上	⑨共通運賃・乗り継ぎ割引の導入	○	—	—
	⑩公共交通利用料金の補助	—	○	—
4. 移動しやすい交通環境の整備	⑪バス車両や歩行者空間のバリアフリー化	○	○	—
5. 環境負荷の軽減に向けて	⑫公共交通利用に係る啓発(MM)及び低炭素型まちづくりの推進	○	○	—

### (評価指標案)

目標・将来像の達成状況の評価するための指標及び数値目標は、次の3項目を基本案とし設定します。なお、数値目標の達成状況の確認は5年おきに実施することとします。また具体的な評価指標や数値目標は、次年度、基本計画策定にあわせて見直しを図る。



### (進捗管理と計画推進)

交通事業者、交通管理者、関係機関や市民代表等で構成する「富谷市総合交通検討委員会」を設置し、施策の進捗状況や評価指標の達成状況の確認を継続的に実施し、必要に応じ、適宜見直しを図る。

施策実施後の評価指標の達成状況の評価・検証を踏まえて、適宜改善・見直しを行うPDCAサイクルにより、進捗管理を行う。

